教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 看護学科　　資格： 助教（臨床）　　氏名： 野田　桃子

研究分野	研究内容のキーワード
成人看護学	移植看護，生体肝移植ドナー
学位	最終学歴
修士（看護学）	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.「成人看護学Ⅱ」のドレーン・チューブ類の観察に関する演習	2024年5月14日	演習科目「成人看護学Ⅱ」において、第9・10回の中の「ドレーン・チューブ類の観察」の講義を中心となって担当した。演習で効果的に学習できるように事前課題を課し、当日の演習時に手元資料として使用させた。学生を1グループ7～8人に分け、模擬人形にあらかじめセッティングされたドレーン・チューブ類の観察手順や注意すべき点について、グループ内で話し合いながら考えてもらった。
2.「成人看護学Ⅱ」における気管吸引の演習	2022年5月31日	演習科目「成人看護学Ⅱ」において、分野の他の教員とともに実施した。3人1組になり、実施者と評価者と観察者の役割を交代しながら、気管吸引の演習を学生主導で実施してもらった。注意すべき点や手技に関して指導を行った。
3.「成人看護学Ⅱ」での関連図と看護問題のリストアップに関する演習	2022年4月19日	演習科目「成人看護学Ⅱ」において、分野の他の教員とともに中心となって実施した。まず、各自が自宅で記載してきた関連図のコピーをグループ内で交換し、自分の関連図には不足点を追記し、他者の関連図には不足点もしくは良い点を1つ以上書いた付箋を貼付してもらった。その後に、関連図の書き方に関する意見交換と看護問題のピックアップとその優先順位を話し合ってもらった。グループ内でお互いの課題を見せ合い意見交換をしながら演習を進めたことで、自分の不足点だけでなくできている部分にも気づくことができたため、学習の理解を深めるのみならず学習へのモチベーションも高めることができた。
4.「初期演習Ⅱ」でのキャリア開発に関する講義	2022年1月12日	看護学部1年生を対象とした演習科目「初期演習Ⅱ」で実施した。他の資格を持つ先生方とともに、自分自身の経験を交えながら、就職活動や看護師のキャリアプランについてわかりやすく講義を行った。また、将来に関する内容だけでなく学生たちが今まさに悩んでいるであろう視点も意識しながら講義を行ったことで、将来の自身のキャリア開発についてより深く関心を持ってもらうことができた。
5.解剖生理学実習の心電図実習でのTA業務	2018年1月19日・26日、12月19日・26日	大阪大学大学院在学中、千里金蘭大学解剖生理学実習の心電図実習でTAとして勤務した。学生同士で実際に心電図を測定し合あうことで心電図の測定方法を学んでもらった。最初に大まかな説明を行い、その後は学生たちに主体的に動いてもらうことで理解を深めることができるようにした。
6.「生理学Ⅱ」における解剖見学実習でのTA業務	2017年12月26日、2018年12月25日	大阪大学大学院在学中、専門基礎科目「生理学Ⅱ」の解剖見学実習でTAとして勤務した。医学生が解剖中のご献体を実際に見学させていただく実習であり、学生が数グループに分かれて学習を進めている中を巡回し、質問対応を行った。ご献体への敬意と向き合う態度についても指導した。
7.「成人急性期看護援助論演習」おける術後観察演習でのTA業務	2017年7月、2018年7月	大阪大学大学院在学中、専門科目「成人急性期看護援助論演習」の周手術期/急性期における術後観察演習でTAとして勤務した。学生にノートパッドを配布し、術後観察の一連の流れを動画に撮り、ディスカッションをしながら学習を深めるよう指導助言を行った。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
8.「成人回復期看護援助論演習」における看護過程演習でのTA業務	2017年5月～7月、2018年5月～7月	大阪大学大学院在学中、専門科目「成人回復期看護援助論演習」の周手術期/急性期の看護過程の授業でTAとして勤務した。学生のグループワークにおいて、情報の分析から看護問題を上げ、看護計画を立案できるようファシリテートした。また、学生の学習成果に対してフィードバックを行った。
9.「成人看護学実習」における臨地実習でのTA業務	2017年5月～2018年12月	大阪大学大学院在学中、専門科目「成人看護学実習」の周手術期/急性期の臨地実習においてTAとして勤務した。病棟において、学生の実習記録の指導を行うとともに、臨床の看護師への計画発表や報告、カンファレンスの運営を適切に行うことができるよう支援した。また、課題を抱えた学生に対する個別的な支援を行った。
10.「生理学Ⅱ」における心肺蘇生、気管挿管、人工呼吸器、十二誘導心電図の実習でのTA業務	2017年5月、2018年5月	大阪大学大学院在学中、専門基礎科目「生理学Ⅱ」の学内演習でTAとして勤務した。主として心電図測定に関して、測定上の指導や助言、注意点など学生に説明し演習を運営した。また、演習全体の進行に関わる業務に関しても、教員の指導を得ながら関わった。
11.SGH高校生のポスター研究発表練習のアドバイスと探求学習のサポート	2016年10月29日	大阪大学在学中、高大接続サポーター学部生として、スーパーグローバルハイスクール高校2年生のポスター研究発表練習のアドバイスと、高校1年生向け探求学習のサポートを行った。研究発表を見た上で、さらに良い研究にするために必要な論理的な思考方法の指導や新たに取り入れるべき視点について助言した。
2 作成した教科書、教材		
1.成人看護学実習（急性期）要項	2021年4月1日～現在	毎年、実習科目「成人看護学実習（急性期）」の実習要項および実習記録用紙の作成や見直しを実施している。2021年度と2022年度は改訂における中心的な役割を担い、分野内の他の教員と共同して実施した。
2.授業配布資料の作成「周手術期にある患者の関連図」	2017年	看護過程演習で活用できる資料の作成に携わった。事例をもとに関連図を書き起こし、学生にとってわかりやすい関連図の例を作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.看護師免許	2017年4月27日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.西宮市保健師業務支援	2021年8月～現在	西宮市保健所の業務支援を行った。
2.大阪大学医学部附属病院における看護師業務	2019年4月～2021年3月	消化器外科病棟において、胃、食道、大腸、胆嚢、肝臓、膵臓の悪性疾患患者の手術・検査・化学療法・カテーテル治療などの集学的治療におけるケアに加え、脳死・生体肝移植、脳死膵腎同時移植など、クリティカルな状況にある患者のケアに携わっていた。侵襲の大きな手術が多く、また既往歴が多く悪性腫瘍の進行している患者が多かったため、術後の急変が多い病棟で実践を行っていた。特に2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、通常であればICU管理が必要となる患者や人工呼吸管理が必要な患者のケアも病棟で受け入れていたため、重症患者のケアに関わる機会が多かった。内科的な治療から周術期、急性期まで幅広い看護を経験した。
3.重症心身障がい児対象放課後等支援サービス/児童発達支援「オールケア山田」にて看護師業務	2017年4月～2019年3月	医療的ケアの必要な重症心身障がいのある未就学児の一日預かり、および小学生から高校生までの利用者が

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		学校を終えてから自宅へ帰宅するまでの時間を過ごす際に、身体状況の確認と医療的処置や介助、日常生活援助を行った。意思疎通を図ることが困難な対象の全身観察を行い、異常の早期発見を行いながら身体状況の悪化を予防するための看護を実践した。
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1.肝提供後ドナーの各施設におけるフォローアップの現状	単	2019年3月	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻（修士論文）	本邦における生体肝提供後ドナーに対するフォローアップ（以下、f/u）の現状を明らかにするために、生体肝移植の実施施設にて、医師、レシピエント移植コーディネーター（RTC）各1名を対象とし、自記式質問紙調査を行った。術後ドナーの受診割合は経過年数に伴い減少した。医師、RTCともに、所属施設にて術後長期f/uを十分に実施できていると「思う」「少し思う」との回答よりも、ドナーへの術後長期f/uを必要だと「思う」「少し思う」との回答の方が多かった。また、RTCは術後f/uの現状に対して医師よりも厳しい見方をしていたが、その理由として、医師とRTCのドナーに対する視点の違いが考えられた。術後長期f/uについての全国共通の明確な基準を必要だと「思う」との回答は両者ともに過半数を超えており、その具体的内容は「術後の外来受診頻度」が最も多かった。各施設における診療体制の違いと「所属施設における術後長期f/uへの満足感」に関連があることも明らかとなった。 発表者：野田桃子、師岡友紀、萩原邦子、梅下浩司
3 学術論文				
1.Fatty liver disease in living donors: a single-institute experience of 220 donors	共	2021年8月	Transplant International 34 (11), 2238-2246	共同研究者として参加した研究成果の発表である。生体肝移植ドナーの術後の脂肪肝の発症率および関連要因を明らかにした。 著者：Wen Fan, Momoko Noda, Kunihito Goto, Yuki Morooka, Takehiro Noda, Shogo Kobayashi, Yuichiro Doki, Hidetoshi Eguhi, Koji Umeshita.
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
２．学会発表				
1.Risk Factors for Chronic Postsurgical Pain After Discharge from Intensive Care Unit: A Literature Review	共	2024年3月7日	27th East Asian Forum of Nursing Scholars	慢性術後疼痛（CPSP）は、集中治療室（ICU）退室後の患者の生活の質に影響を与える要因の 1 つである。 ICU退室後の慢性疼痛に関する研究が行われているが、術後の疼痛に焦点を当てた文献は依然として不足している。そのため、本研究の目的は、文献レビューを実施することでICU退室後の術後患者におけるCPSPの危険因子を決定することとした。予定手術後に ICU に入院した患者における CPSP の危険因子は、手術前および手術中、ICU 退室中および退院後のすべての段階で観察され、身体的要因と精神的要因の両方が含まれていた。これは、周術期における予防的介入の必要性を示唆していた。 発表者：野田桃子、師岡友紀、上野高義 本人担当部分：執筆全般
2.本邦の肝移植施設における生体肝ドナーの術後フォローアップの現状	共	2020年11月10日	日本移植学会総会	本邦での肝提供後ドナーへの術後f/uの実態を医師とRTCの視点から明らかにした。生体肝移植の実施施設に勤める医師、RTC各1名を対象とし無記名自記式質問紙を郵送・回収した。調査内容は、術後長期f/uの必要性、受診頻度と診察内容、主観的受診率（受診率）、術後f/uの全国共通基準の必要性、RTCの関わり方、自施設でのf/uへの満足感とした。f/uの実態と自施設でのf/uへの満足感の関連を解析した。RTCの方が医師よりも継続的なf/uの必要性を感じており、f/u体制における施設ごとの差異が示唆された。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
3.本邦の肝移植施設における生体肝ドナーに対する診療体制の実態	共	2019年9月	移植 54巻総会臨時310	発表者：野田桃子、師岡友紀、萩原邦子、梅下浩司 本人担当部分：執筆全般 本邦の肝移植施設における生体肝ドナーへの術前～退院指導時の診療体制の実態を明らかにし、さらに所属施設での術後長期f/uへの満足感との関連性を検討することを目的とした。生体肝移植の実施施設に勤務する医師、RTC各1名を対象とし、無記名自記式質問紙調査を実施した。ドナー外来、RTCの関わり、肝移植の継続的な実施のある施設において、術後ドナーへの関わりがよりなされていることが示唆された。
4.生体肝提供手術後の脂肪肝に関する検討	共	2018年9月	移植 53巻総会臨時406	発表者：野田桃子、師岡友紀、萩原邦子、梅下浩司 本人担当部分：執筆全般 生体肝ドナーの術後長期予後、特に脂肪肝の実態を明らかにすることを目的とした。診療記録より生体肝ドナーの背景、併存症、手術因子、血液検査データ、生検と画像検査に関するデータを収集し、分析した。ドナーの術後f/uにおいて、体重変化、脂肪肝歴、肝脂肪化程度を意識することが重要である。また、γ-GTPは毎回受診時に測定すべきと考えられた。
5.生体肝移植ドナーの術後1年目受診時における消化器症状および創の状態について	共	2017年11月	移植 52巻4-5号440	発表者：方聞、師岡友紀、野田桃子、江口英利、梅下浩司 本人担当部分：データ収集の一部、分析方法の考案 術後1年目の受診時の消化器症状と創の状態に関する実態を明らかにすることを目的とした。診療記録より生体肝ドナーの属性と術後1年目の消化器・創症状の有無のデータを収集し、属性による症状の有無の差異を分析した。かゆみ、肥厚性瘢痕、痛み、つっぱりが多く見られ、消化器症状としては下痢、便秘・腹部張り等が見られた。症状と有意に関連する要因は認めなかった。
6.肝提供後の脂肪肝発症の有無に関連する要因について	共	2017年11月	移植 52巻4-5号440	武内紗千、師岡友紀、野田桃子、梅下浩司 本人担当部分：データ収集の一部、データ分析の一部 肝提供後ドナーの脂肪肝発症の実態および関連要因を明らかにすることを目的とした。診療記録より、生体ドナーの背景データ、手術に関するデータ、脂肪肝に関するデータを収集し分析した。肝提供後ドナーの脂肪肝の発症率は一般人の発症率よりも低かった。術前脂肪肝がある場合や術後の体重変化が大きい場合は脂肪肝の発症予防のための関わりが必要と考えられた。
7.生体肝ドナーの提供手術後の外来受診の実態と関連要因について	共	2017年8月	移植 52巻総会臨時518	発表者：野田桃子、師岡友紀、梅下浩司 本人担当部分：執筆全般 生体肝提供術後のドナーの外来受診の実態および関連要因を明らかにすることを目的とした。診療記録より、生体ドナー関連のデータ、レシピエント関連のデータを収集し、分析した。術後1、3、10年目の受診状況は各々75.3%、42.3%、35.2%であった。女性ドナーの方が男性ドナーよりも受診率が高く、術後経過年数が長いほど受診率が低下する傾向が認められた。 発表者：野田桃子、師岡友紀、梅下浩司 本人担当部分：執筆全般
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.新たなアクティブを彩るスターターBOX	共	2022年3月11日	第7回 医美同源デザインコンペティション「入院生活を豊かにするデザイン」	第7回 医美同源デザインコンペティション「入院生活を豊かにするデザイン」【コミュニケーション部門】で優秀賞を受賞した。 発表者：長田知恵、周戸夏音、野田桃子、三木紗矢香
2.2015年度日本学生オリエンテーリング選手権大会リレー競技部門 女子選手権クラス 6位入賞		2016年3月13日	2015年度 日本学生オリエンテーリング選手権大会	2015年度日本学生オリエンテーリング選手権大会リレー競技部門 女子選手権クラスに2走で出場し、6位で入賞した。
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
1.ICU退室後の患者における遷延性術後痛のリスク因子に関する研究	共	2023年4月～	文部科学省科学研究費補助金　基盤研究（C）	研究代表者：野田桃子 研究分担者：上野高義、師岡友紀、藤田安沙貴

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2021年4月～現在	寿会富永病院　非常勤講師